

テーマ

チャレンジ！サバイバル！アドベンチャーキャンプ！

事業実施地区（中学校区名）	海士中学校区
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	海士町中央公民館

テーマの背景

中央公民館は地区公民館を統括する立場にあり、地域住民の自主的な活動の広がりを推進・支援している（「地区公民館活動推進事業」）。また中央公民館事業のもうひとつの柱は、「ふるさと教育と伝統文化の継承推進」である。地域の課題解決を図るための場づくり（講座開講など）や、ふるさとの歴史・文化・自然を愛し継承できる人材の育成を目指している。

実際の取組

ふるさとの魅力や自然の大切さに気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名：「第21回アドベンチャーキャンプ in あま2017」（通称：アドキャン）

<取組の概要>

○事業のねらい

「忍耐力」…困難（暑さ、辛さ、寂しさなど）にぶつかってもあきらめずに、最後まで頑張り乗り越える力を育てる。

「連携力」…異なる意見も調整しながら、チームワークを創り出していく力や、他の人と協力しながら行う姿勢を育てる。

「自然との共生力」…自然環境を守り、自然からの恩恵を活かし生きていく力を育てる。

「感謝の心」…メンバー、スタッフ、家族に対するありがたいと思う感謝の気持ちを育てる。

○具体的な取組

既存のキャンプ場ではなく、トイレ、炊事場等すべて手作りの場所で食事の準備や洗濯など全て班ごとに自分たちで行いながら、いかだづくり、航海などにチャレンジしていく。また「海で泳ぎ、潜り、海遊びを堪能できるようになってこそ海士の子」ということで、泳力レベルごとに活動を分け、飛び込みや素潜りにも挑戦した。厳しい環境下で成功体験および失敗体験を経験するなかで、上述のねらいに迫る。

- 1 日目 「出会いの日」
- 2 日目 「いかだづくりの日」
- 3 日目 「いかだ航海の日」
- 4 日目 「チャレンジの日」
- 5 日目 「お祭りの日」
- 6 日目 「お別れの日」



<成果と課題>

自分たちで立てたテントで共に過ごし、自分たちで火をおこして料理を作った5泊6日間。自然の中での生活を苦にせず満喫する姿に逞しさを感じる一方、炎天下での慣れない生活に疲れがピークになっていた子ども。「早く帰りたい」というつぶやきは、家に帰ればご飯があるありがたみや家族の大切さを実感している裏返しでもある。このキャンプで経験した楽しさや辛さが、少しでも子どもたちの日常生活への良い変化となって表れることを願う。

海の時化など天候の変化による臨機応変な対応が毎回の課題であるが、何よりも子どもたちの安全を第一に、次年度もより良いキャンプにしていきたい。

まとめ

テーマに迫るためのポイント

大人の関わり方～主役は子ども！～

カウンセラーという立場で各班1人ずつ大人がついた。テント設営や刃物、火の扱いなどスキル面はしっかり教えて安全を確保する一方で、料理やいかだづくり、海泳ぎ、子どもたち同士の役割分担などに関しては「見守る」姿勢を徹底した。プログラムの達成がねらいではなく「やり遂げようとする自主的な気持ち」を尊重し、失敗も成功も見守り、子どもたちの心の動きを感じてあげることを大切にしたい。

今後の展望

〈成果と課題〉でも述べたように、天気によって左右される部分が大きいため、今後も自然と向き合いながら安全面に配慮し進めていきたい。船の操縦ができ、海に精通している地域の方が長年キャンプに携わってくださっているが、そういった方の年齢を考慮した場合に、後継者の育成が課題となる。

またキャンプ中の食事面に関して、自分たちでいちから準備をするとはいえ、役場健康福祉課監修のもと食材を毎日準備してもらい、調味料や調理器具も揃っている。厳しい環境下での活動のため、健康面に配慮してのことではあるが、例えば「初日に配られたお米で5泊6日乗り切る」という決まりを設けたり、「1日だけ自分たちで獲った(採った)食材のみを使って料理する」日を設けたりする試みがあっても良いのかもしれない。